

レベル4。

ここからはきっちり、ちんぽ追い詰めていく。

このレベルでは、ノンストップでオナニーをしてもらう。

扱うペースは指定しないけど、

合図があるまでシコシコを止めるのは禁止。

そんなの余裕だって思った？

ふふっw

大丈夫。

心配しなくても、ちゃんとキツい目に遭わせてやるから。

ノンストップシコシコ、始めろ。

いい？

許可があるまで扱く手は止めちゃダメ。

君が変態なのはもう分かってる。

ここからは、変態の君が、

どこまで酷い変態になれるか試してやる。

早速、キツいいじめが欲しくてたまらないみたいだね。

変態の心の声、洩れてる。

「こんなぬるいオナニーじゃなくて、
もっと厳しく舐めてくださいいゝん。」

しょうがないなー。

じゃあルール追加してあげる。

その前に忠告。

今の内に、扱くペースは遅くしておいた方がいい。

ルール追加。

今から、シコシコのペースを遅くするのは、禁止。

ヤバイルール追加されちゃったの、分かる？

スピードを上げるのはいいけど、遅くするのは許さない。

つまり、シコシコは速くなる一方。

ノンストップ・後戻り不可の快樂地獄、頑張ってね。

ペース上げたら大変なことになっちゃうよ。

でも、おちんちは、状況が分かってないみたいだね。

もっと早く扱いてゝって、おねだりしてるよ。

「シコシコのスピード上げてえゝ♡」

「シコシコッ♡シコシコッ♡てしてえゝ♡」

ほら、おねだりに応えてあげないと、ちんちんがかわいそう。

ぐちゅうううう…ってしっかり握り込んだちんぽを、

素早く、

シコシコッ、

シコシコシコッ。

ちんぽ悦ばせてあげよ？

シコシコシコッ、

シコシコシコシコッ。

「あーん、速いシコシコ気持ちいいいーん♡」

ぷっ w

馬鹿じゃないのお前。

速く扱いちゃいけないって分かってるのに、

耳元で煽られただけで、簡単に乗せられちゃうんだね。

「やゝん♡シコシコどんどん速くなるぅ♡

ちんちん追い詰められちゃうぅ♡」

「あっ♡あっ♡あっ♡あゝん♡精子のぼってくるぅっ♡射精の準備始
めちゃうぅ♡」

「このままだと精子お漏らしさせられちゃう♡

許してえ♡まだギブアップしたくないよぉ♡」

ストップ。

手、とめて。

大変そうだね。

もうお漏らし我慢するの無理ってときは、

ギブアップしていい。

そしたら、それなりの射精させてあげる。

でも……

死ぬほどみっともなくて、最低なマゾ射精がしたいなら、最後まで我慢、頑張ろうね。

今からまたさっきのやらせるけど、

ギブアップが嫌なら、ゆっくり扱いた方がいいよ。

一方通行のノンストップシコシコ、楽しんでね。

スタート。

今度こそ、ゆっくり扱き続けられるといいね。

トロ〜いオナニーで、ちんちんに優しくしてあげようね。

シコシコ速くして、自分で自分を追い詰めるような馬鹿な真似、
しない方がいいよ。

でもおろろ……、

私は、

馬鹿な真似しちゃうような変態君の方が好きかも。

マゾなんて変態であれば変態であるほど面白いし……、

可愛がってあげたくなっちゃうな。

私に気に入られるために苦しんでるところ、見せてよ。

「あゝん、ノア様の意地悪う……♡

そんなこと言われたら、お手々速くなっちゃう♡」

「ノア様に気に入りたいよお♡」

「シコシコ速くするから見てえ♡

ノア様のお気に入りにしてえ♡」

うんうん、見てるより。

馬鹿がちんぽ扱き倒してるところ、よく見てるからねー。

気に入られたかったら限界までスピード上げようねー。

最高速のシコシコで追い込んでる姿、

ノア様に見てもらおうねー。

いっちばん速いペースでえ……

シコシコシコシコシコシコシコッ♡……ぶっw

もう戻れないよ。

そのまま高速でちんぽヤバくしてろばーか。

「これヤッバイ、ちんぽ追い詰められるうつ……♡

ノア様見てえっ♡変態の愚かな痴態笑ってえ♡」

ぷっwふふっw

チヨロ過ぎでしょお前w

ノア様に気に入ってもらえるかな？w

ふふっw

「あゝんノア様に笑われて嬉しい♡

嬉しくてちんちんビクビクするうつ♡

精子のぼってくるうつ♡

バカちんぽが射精の準備始めちゃううつ♡」

ほんとばかだね。

頭大丈夫？

大丈夫じゃないよね。

まともな脳みそしてたら、こんな簡単に乗せられて、

ちんちん追い詰められたりしないもんね。

バカってかわいそー。

はいストップ。

レベル4はここまで。

私のお気に入りになれるよう、

もっと変態レベル上げてこうね。